

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 933

所管部局	上下水道部	所管課	上水道課	担当者名	矢野 哲也
事業名	上水道整備事業			事業分類	ハード事業
細事業名	上水道整備事業			政策体系	224
会計	上水道会計	科目	1. 事業 - 1. 資本 - 1. 建設		

1. 事業の概要

水道事業は、安全な水道水を安定的に供給することにより地域社会の福祉及び経済活動に寄与する事業で、上水道事業は、浄水場4箇所及び総管路延長約200kmなどを以って事業を実施しています。上水道整備事業においては、これら水道施設の改修及び配水管の新規布設などを実施しました。

2. 事業の目的と必要性

① 施策で目指す目標との関連付け

施策体系においては「資源が循環するまちをつくる」に位置付けられているが、基本的な社会基盤として広く地域社会に貢献している事業です。

施策目標としては、水資源の循環としての水道水の供給を効果的、且つ効率的に実現することを目指します。

② 事業を実施する必要性

水道事業に求められる公益性及び公共性から、自治体による事業経営の継続が必要です。

事業評価の区分については上水道事業の施設整備関係を一括して「上水道整備事業」としております。

なお、「上水道整備事業」は、改修及び新規布設は自己資金を充て、移設については原因者の負担によることを基本としています。

3. 事業費の推移

	単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画	
決算額または計画額	千円	980,624	348,581	323,760	293,112	326,748	200,000	200,000	
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	0	0	0	0	0	0	0	
財源内訳	使用料・手数料等	千円	119,539	131,909	78,920	86,810	90,996	80,000	80,000
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	300,000	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	561,085	216,672	244,840	206,302	235,752	120,000	120,000
職員等の従事人員	人/年	—	—	3.30	3.00				
人件費	千円	—	—	17,102	20,571				
事業費総額	千円	—	—	340,862	313,683				

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。

※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

建設改良費	293,112千円
(企業債元金分)	113,603千円)

5. 事業結果の概要

- ・各種水道施設に対して適切な改修等を実施できた。
- ・水道施設の機能維持が効率的に実施された。

6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
(1) 配水設備拡張費		
●配水管等を新規に整備する事業の内、配水効率の向上等を目的として実施する項目として設定している。 ●平成20年度においては、区画整理事業関係で3件、配水管網関係で3件、計6件の新規配水管布設事業を実施した。●新規配水管布設事業の内、区画整理事業関係分については、区画整理事業組合の費用負担を内容とする委託を受けて実施した事業である。	●年間を通じて	●適正な施工がなされた。
(2) 配水設備改良費		
●既存の配水管等を更新又は改良する事業項目として設定している。●平成20年度においては、府及び市等の関係機関からの委託を受けて実施した件数は9件で、単費工事件数は4件の合計13件の改良工事を実施した。●単費工事の内、3件は国道9号での布設替工事で、他の1件は口径400mmの基幹管路の修繕であり、何れも緊急性が高かった。	●年間を通じて	●適正な施工がなされた。
(3) 固定資産取得費		
●新規に給水を受ける方に対する量水器の購入を行う項目として設定している。●平成20年度においては、各口径で109個を計画し、85個を購入配置した。	●年間を通じて	●適正な設置がなされた。
(4) 第二次拡張事業費		
●配水管等を新規に整備する事業の内、旧園部町において実施中の事業を明確にする項目として設定している。●平成20年度においては、工事件数は9件で、内1件についてはJRに工事実施を委託して実施した。	●年間を通じて	●適正な施工がなされた。
(5) その他		
●企業債の元金分に係る償還を行った。	●年2回	●適正に処理された。

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

<p>①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点 実施した各事業について、効率的な施工が実施できた。</p> <p>②当該事業のアピール事項 特に、早期実施を求められる配水管の移設についても、適正に実施することができた。</p> <p>③反省点、今後の展開・方向性等 今後においては、引き続き効率的な施工方法の習得の必要がある。</p>
--

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

<p>①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点 実施した各事業について、効率的な施工が実施できた。</p> <p>②当該事業のアピール事項 特に、早期実施を求められる配水管の移設についても、適正に実施することができた。</p> <p>③反省点、今後の展開・方向性等 今後においては、引き続き効率的な施工方法の習得の必要がある。</p>
--